

令和8年6月18日

浦添市議会議長 殿

総務委員会
委員長 濱崎 早人

総務委員会視察報告書

令和8年5月13日に、委員会視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

- | | |
|---------|--|
| 1 視察期間 | 令和8年5月13日（水） |
| 2 視察場所 | 沖縄県消防指令センター（うるま市） |
| 3 視察項目 | 沖縄県消防指令センター施設の機能・設備等について |
| 4 視察参加者 | 濱崎 早人（委員長） 豊元 ふき（副委員長） 仲間 烈
金城 大輔 又吉 正信 |
| 5 調査内容 | 別紙1のとおり |

視察日	令和 8 年 5 月 13 日（水）
視察先	沖縄県うるま市 沖縄県消防指令センター
視察先の概要	
沖縄県消防指令センターは、県内38市町村からの119番通報の受付を行い、消防車や救急車の通信指令業務の運用を共同で行っている。119番通報を一元化しているが、消防車、救急車等の出動は、最寄りの消防署や出張所等から出動する。令和 8 年度から浦添市と沖縄市が参入し離島を含め県内38市町村を管轄している。機器の老朽化などにより、嘉手納町からうるま市に移転した沖縄県消防指令センターは、令和 8 年 4 月 1 日から稼働しており、最新の通信技術と高度な指令機能を備え、沖縄県全体の消防力向上の中核として重要な役割を担うことが期待される。	
調査項目	
沖縄県消防指令センター施設の機能・設備等について	
調査理由	
令和 8 年度から浦添市と沖縄市が参入し、また、最新の通信技術と高度な指令機能を備え新設された沖縄県消防指令センターについて、消防通信指令システムの導入効果や、119番通報を一元化することの効果及びメリット、119番通報の受理から消防車及び救急車の出動要請等までの対応、また、共同整備・共同運営に伴う相互応援体制の効果及びメリットなど、今後の本市の119番通報の対応等について調査することを目的に視察を行った。	
調査内容	
沖縄県消防指令センター施設の機能・設備等について	
考察（各委員の考察を列記）	
・今回、浦添市と沖縄市が加入し38の市町村が指令センターに加入。 運用の効率化による市民サービス向上。広域での救急発生状況と出動の一元把握により本市救急全車が出動中の際の近隣の市からの応援出動が迅速化され現場到着時間の短縮に繋がる。又、災害情報の一元化により特殊な災害に対する近隣の市から応援の迅速化に繋がる。経費の削減、指令業務の高度化になり加入自治体にはメリットが大きいと思います。 従来12名の指令業務に携わって職員を6名派遣し残りの職員は救急隊や必要な部署へ再配置が出来るのも本市にとって市民の安心・安全を守ることが出来る。派遣職員2年交代ではあるが他の消防職員との共同業務や情報交換を通して人材育成に繋がる。 ・今回、総務委員会で沖縄県消防指令センターを視察し、県内38市町村、離島を含む広域の119番通報を支える体制について学びました。 視察を通して特に印象的だったのは、各消防署から派遣された職員の皆さまが、3年間指令センターで実務を経験し、その後それぞれの消防署へ戻る仕組みです。現場経験を持つ職員同士が、消防署の垣根を越えて連携しながら業務にあたることで、県全体の消防力や情報共有力の向上につながっていると感じました。 また、10名体制の4班による24時間対応が行われており、昼夜を問わず県民の安心・安全を支えていることに、大きな責任感と使命感を感じました。指令センターが「命をつなぐ最前線」であることを実感しました。 さらに、最新システムとして、通報内容を文字化する機能や、多言語対応機能が導入されている点も非常に重要だと感じました。沖縄県には観光客や外国人住民も多く、言葉の壁によって救助要請が遅れてしまうことは命に関わります。こうした機能によって、緊急時でも迅速かつ正確な対応が可能になることは、誰もが安心して暮らせる地域づくりにつながると感じます。 女性の視点から見ると、災害時や救急時には、子ども、高齢者、妊産婦、障がいのある方など、支援を必要とする方への配慮がより重要になります。特に、小さな子どもを抱える家庭や高齢者介護を担う方々にとって、「すぐにつながる」「正確に伝わる」体制があることは、安心につながると感じました。 今回の視察を通して、消防・救急体制は現場だけではなく、その後方で支える通信・指令機能、そして人と人との連携によって成り立っていることを学びました。	

- ・ ①施設の機能・設備について
 指令席が10席あり、昼・夜の2交代の4班で運営している。
 指令席には7つのモニターがあり、それぞれのモニターごとに表示機能が異なっている。10席の司令席の正面には横幅10メートルを超える巨大なモニターがあり、全体の情報を見れるようになっていた。
- ②119番通報を一元化することの効果及びメリット
 消防指令センターは離島まで対応しており、離島を含めた広い範囲の対応をしているのは全国的にもないとのことだった。通報への対応を一元化することで現場の人員を増やすことができ、大規模災害などで、他の地域からの応援をする際にも円滑に対応できる。また、機器の更新においてもコストを抑えることができるため、予算規模の小さい町村にとってはメリットが大きい。
- ③出動要請までの対応について
 基本的には90秒で出動することを目指している。通報があった時点でその地域の消防には通報があることが共有され、出動準備を始め、指令が来たらすぐに出動できる体制を作っている。
- その他
 非常用電源もしっかり備えており、停電の際にも対応できる。現在の指令室の隣には同じ大きさの部屋があり、機器の更新などの時にはその部屋を新しい指令室として利用する。消防指令センターの場所は海拔も高いため津波の心配はない。
- ・ うるま市にある沖縄県消防指令センターを視察。
 沖縄県内38市町村の119番通報を受理している。
 県内から1日約300件程度の通報があるとのこと。
 以前までは浦添市は市内のみで行っていたが、広域で行う事で、基本的には市内へ対応しているが、災害時には他市町村と連携して災害対策も出来る事でメリットがあり、それ以外にも人的配置も市単独で行うよりも少なくすむ事、経費について押さえることが出来る。
 今後の課題としては広域で行うことで他市町村との連携や人材育成が上げられると思うが、そちらについても現在市町村と連携して解決に向けて行うとのことだった。



